23 品詞分類

要点のまとめ

自立語と付属語

- **自立語**…単独で文節を作れる単語。必ず文節の初めに一つだけある。
- **付属語**…単独では文節を作れない単語。必ず他の語の後に付き、文節の初めにはない。一つの文節に複数あることも、一つもないこともある。

例 クリスマスに（付属語）は／家族で／パーティーを／する。（自立語）

活用

- **活用**…後に続く言葉によって語の形が変わること。

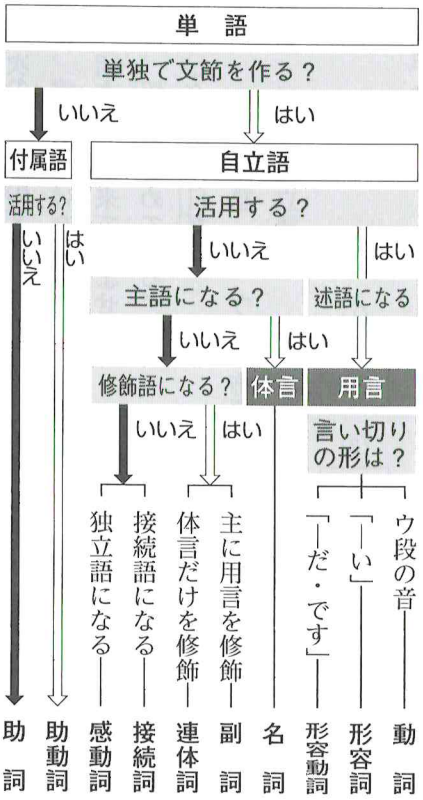
活用のある語	例 走る→走ろ-う　寒い→寒く-ない 静かだ→静かに-なる　（食べ）られる→（食べ）られ-ない
活用のない語	例 朝→朝-だ　もっと→もっと-ほしい

体言と用言

- **体言**…単独で主語になることのできる単語。物や事柄を表す。
- **用言**…単独で述語になることのできる単語。活用する自立語。

品詞の分類

単語はその性質や働きによって、十種類の**品詞**に分けられる。



確認問題

1 自立語　次の各文から自立語を全てそのままの形で抜き出しなさい。

① 私が初めてスキーをしたのは、七歳のときだった。

② 雑誌に載っているような服を買ってほしい。

ポイント「自立語は、文節の初めにあり、一文節に必ず一つだけ」という特徴に注意して、文を文節に分け、文節の最初の単語を抜き出す。

2 付属語　次の文から付属語を全てそのままの形で抜き出しなさい。

- ディベートに参加して、クラス運営の問題点を考えさせられた。

ポイント「付属語は、単独で文節を作れず、自立語と共に文節を作る」という特徴に注意して、文を文節に分け、自立語ではないものを全て抜き出す。

3 活用　次の文から活用する単語を全てそのままの形で抜き出しなさい。

- 母は長い間、妹がゲームをするのを禁じている。

ポイント後に「-ない」などを付けて形が変わる語を、単語で抜き出す。正確に抜き出すために、まず文を文節・単語に分けるとよい。

4 体言・用言　次の文から体言と用言を全てそのままの形で抜き出しなさい。

- 新しく買った浴衣（ゆかた）を着て、花火大会に行った。

体言

用言

ポイント　体言・用言に当てはまる品詞を確認する。助詞や助動詞を区別して、文節ではなく単語単位で抜き出す。

5　単語の分類　次の文の［　］A・Bに当てはまる言葉の組み合わせとして適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。　〈岡山〉

▪単語のうち、単独で文節を作ることができるものを［A］といい、そのうち活用があり、単独で述語になることができるものを［B］という。

ア　A＝自立語　B＝用言　　イ　A＝自立語　B＝体言

ウ　A＝付属語　B＝用言　　エ　A＝付属語　B＝体言　［　］

ポイント　単語はまず自立語と付属語に分けることができる。さらにそれぞれを活用の有無で分類することができる。「単独で述語になることができる」品詞は、動詞・形容詞・形容動詞。

6　品詞　次の二つの文の――線「走り」を後のような形で説明したとき、［　］A・Bに当てはまる品詞名を書きなさい。　〈山形〉

▪……電車や自動車が①走り、飛行機が空を飛び、……。

▪世界記録保持者の②走りが、決勝の見どころだ。

二つの「走り」を、それぞれ文の成分から考えたとき、――線①の「走り」は述語になり、活用することから、［A］であり、――線②の「走り」は主語になっていることから、［B］であることがわかる。

A［　］

B［　］

ポイント　主語や述語になることから品詞を特定する。述語になる品詞は三種類あるので、言い切りの形で考えてみる。

7　品詞　次の各文の――線の品詞名として適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①　神様に祈った。　　②　もう眠くなった。

③　雪が降ったら寒かろう。　　④　彼も参加するそうだよ。

⑤　はい、私が日直です。　　⑥　手伝いをしてほめられた。

⑦　あの人は中国から来たそうだ。　　⑧　では、君の言い分を聞こう。

⑨　きれいな花を飾る。　　⑩　夜になったら星を見よう。

ア　動詞　イ　形容詞　ウ　形容動詞　エ　名詞

オ　副詞　カ　連体詞　キ　接続詞　ク　感動詞

ケ　助動詞　コ　助詞

①［　］　②［　］　③［　］　④［　］　⑤［　］

⑥［　］　⑦［　］　⑧［　］　⑨［　］　⑩［　］

ポイント　――線の部分が自立語か付属語か、活用するのかしないのか、一つずつ検討していく。自立語の場合は、どのような文の成分になっているのかも手がかりになる。用言は述語になる他に修飾語にもなるので注意すること。

8　品詞　次の文を組み立てている単語の品詞の並び順として適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。　〈三重〉

▪最適なものに変わっていった。

ア　形容詞→名詞→助詞→動詞→助詞→動詞→助詞

イ　形容詞→名詞→助詞→動詞→助詞→動詞→助動詞

ウ　形容動詞→名詞→助詞→動詞→助詞→動詞→助詞

エ　形容動詞→名詞→助詞→動詞→助詞→動詞→助動詞　［　］

ポイント　選択肢を見比べると、文が七つの単語からなっていること、最初の語と最後の語以外はどれも同じであることがわかる。文を七つの単語に区切り、一語目と七語目の品詞を検討する。